

第 3 委員会報告資料

博多港港湾計画（改訂）の方向性について

平成 2 7 年 2 月

港 湾 局

博多港港湾計画（改訂）の方向性について

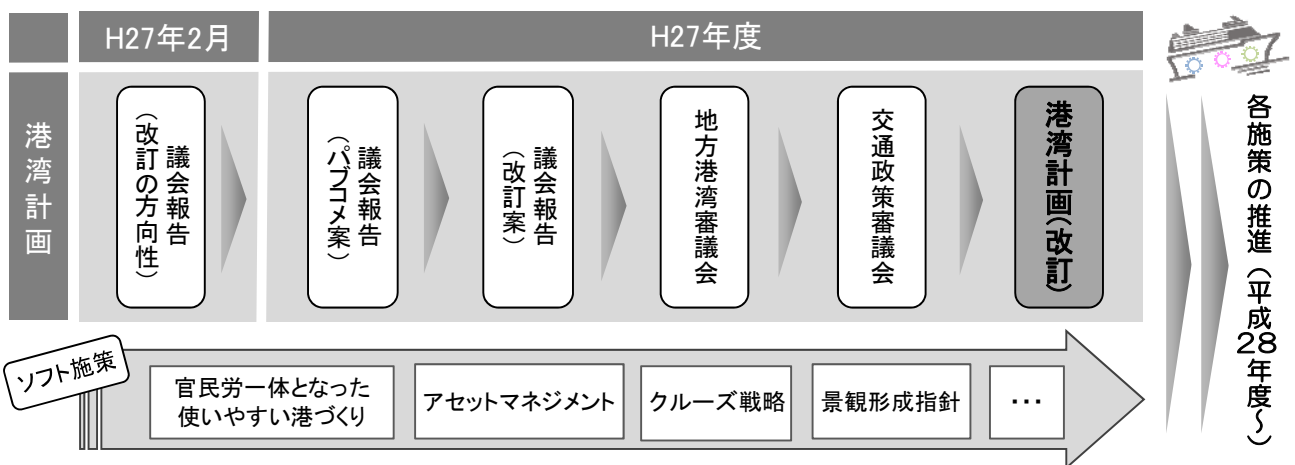
1. 港湾計画とは

- ・港湾の開発，利用及び保全に関する基本となる法定計画
- ・10～15年程度の将来に向けた，港湾整備や管理運営等の指針となるもの

2. 港湾計画（改訂）の必要性

- ・現計画（H13年7月改訂）の目標年次（H20年代前半）を超過
- ・現計画の国際海上コンテナ取扱量等の目標値を超過
- ・「博多港長期構想」の提言（H24年8月），「第9次福岡市基本計画」の策定（H24年12月）
- ・船舶の大型化，クルーズ需要の高まりなど，博多港を取り巻く環境も変化
⇒港湾計画の改訂が必要

3. 今後の進め方



4. 改訂の方向性について

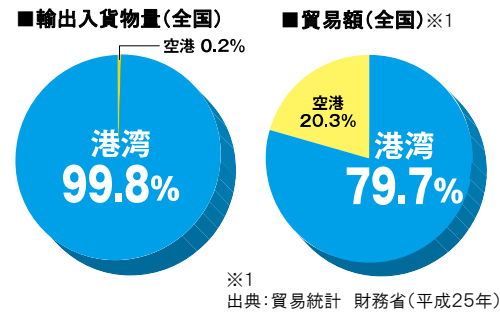
- ・以下のとおり

博多港港湾計画(改訂)の方向性について [博多港の概況]

1. 博多港の概況

■博多港の役割

- ・日本はエネルギーの9割以上、食料の約6割を海外に依存
- ・輸出入貨物の99.8%、貿易額では約8割が港を通じて取引
- ・博多港は、**地理的優位性**を活かし、日本の貿易活動の一翼を担う重要な社会インフラとして機能
- ・博多港は、福岡市の経済や雇用、税収に大きな効果をもたらしている（**市内総生産等の3割**）とともに、九州西日本の産業を支えている。



■港湾計画※の経緯

- S 27 福岡市が博多港の港湾管理者になる
- S 35 港湾計画策定 ⇒ 「商港」に加え、「工業港」を目指す
- S 47 港湾計画改訂 ⇒ 「流通港湾」に方針転換
- S 53 港湾計画改訂 ⇒ 陸続きのターミナル計画、都市側の要請による臨海部の開発
- H 1 港湾計画改訂 ⇒ アイランドシティを自然環境に配慮した島形式に転換
物流のコンテナ化進展への対応、中央ふ頭再開発
- H 13 港湾計画改訂 ⇒ コンテナ物流強化、中央ふ頭における国内外の旅客対応

以降、社会経済情勢の変化に対応するとともに、事業の進捗状況等に応じて、適宜、港湾計画の変更を行うことで、施策を展開してきた。

※港湾法に基づき定める、港湾の開発、利用及び保全に係る基本計画。
概ね10～15年後を目標年次とする。

■博多港の特徴

■国際拠点港湾として...

- ・国際海上コンテナ取扱個数(91万TEU)は全国6位。九州の輸出入コンテナの半分以上を担うアジア、北米など11か国・地域43の主要港と41航路月間218便のサービス実現
- ・貿易額は2兆9千億円(全国10位)
- ・世界トップクラス企業の輸出拠点【ブリヂストン(タイヤ)、トヨタレクス(自動車)】
- ・家具、衣類等の生活必需品の輸入拠点。一部は関東など広域に出荷。
- ・九州に輸入される食料用小麦の全量を取扱い
- ・先駆的な港湾運営(物流ITシステム、環境配慮型荷役施設)

■国際交流の窓口として...

- ・中央ふ頭・博多ふ頭の再開発により、ウォーターフロントの賑わい創出
- ・外国航路船舶乗降人員数(86.6万人)は22年連続日本一
不定期航路(クルーズ船等)の乗降人員数(42.2万人)は過去最高(H24)から倍増
- ・外航クルーズ船寄港回数は99回(H22・H24・H26は日本一)
- ・国際会議開催数全国第2位

■21世紀の先進的モデル都市を実現する場として...

- ・アイランドシティ整備事業

■海辺を活かした良好な居住空間の供給の場として...

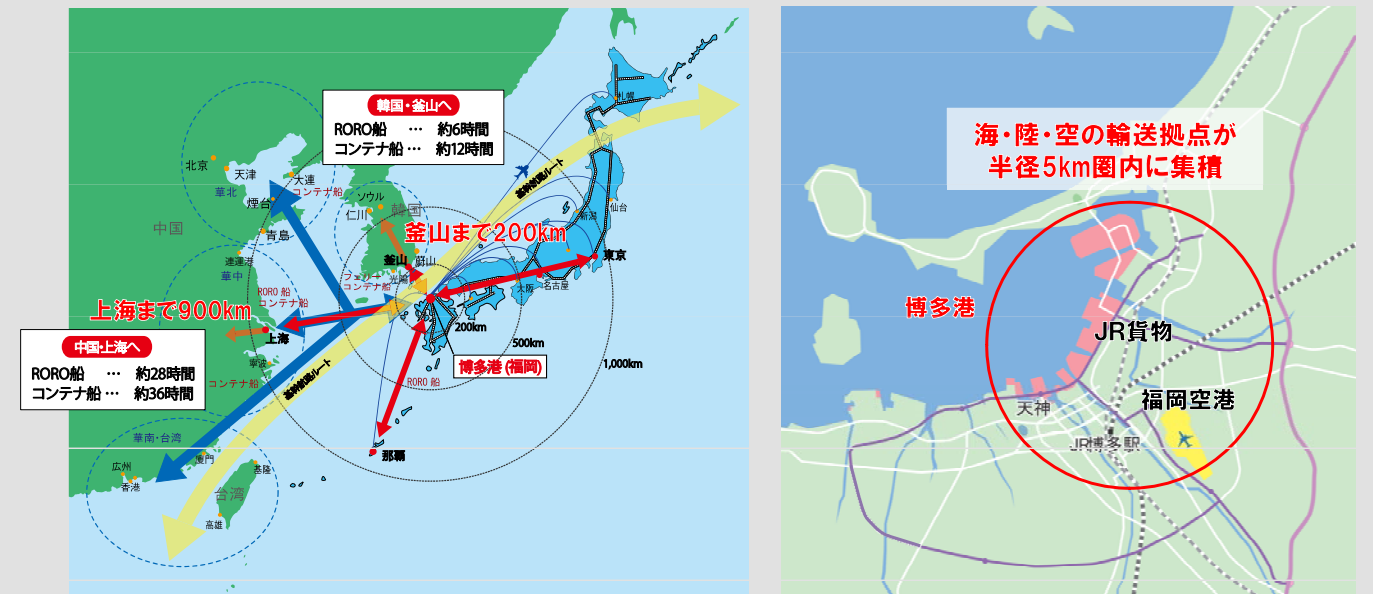
- ・シーサイドもちち、マリナタウン

■港を通じた環境の保全と創造する場として...

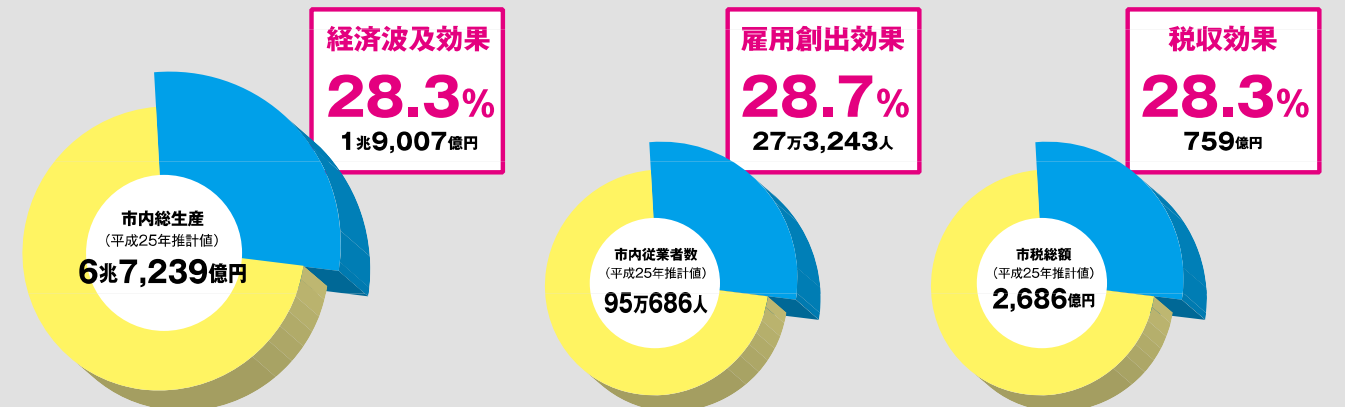
- ・エコパークゾーンにおける人と自然の共生
- ・国際港湾協会総会にて、エコ・コンテナターミナルが港湾環境金賞を日本初受賞

～博多港の地理的優位性～

- ・経済成長著しい東アジアに近接
- ・北米、欧州とダイレクトにつなぐ基幹航路ルートに近接
- ・太平洋側で発生が想定される南海トラフ地震での影響は少ない
- ・海、陸、空の輸送モードが半径5km圏内に集積
- ・九州における経済の中心である福岡市にあり、陸路の交通網が充実

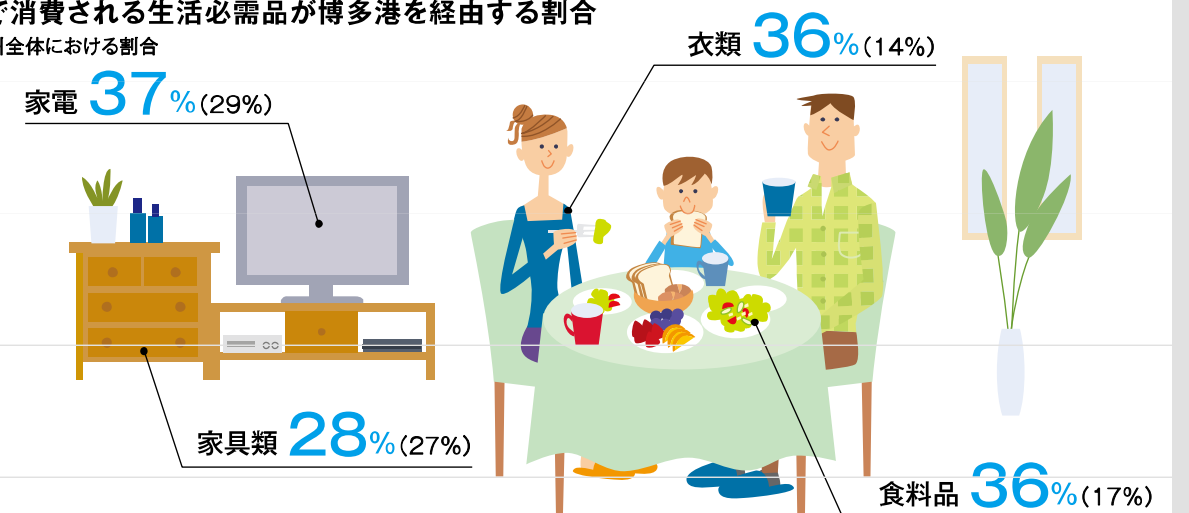


～博多港の経済効果等～



■福岡市で消費される生活必需品が博多港を経由する割合

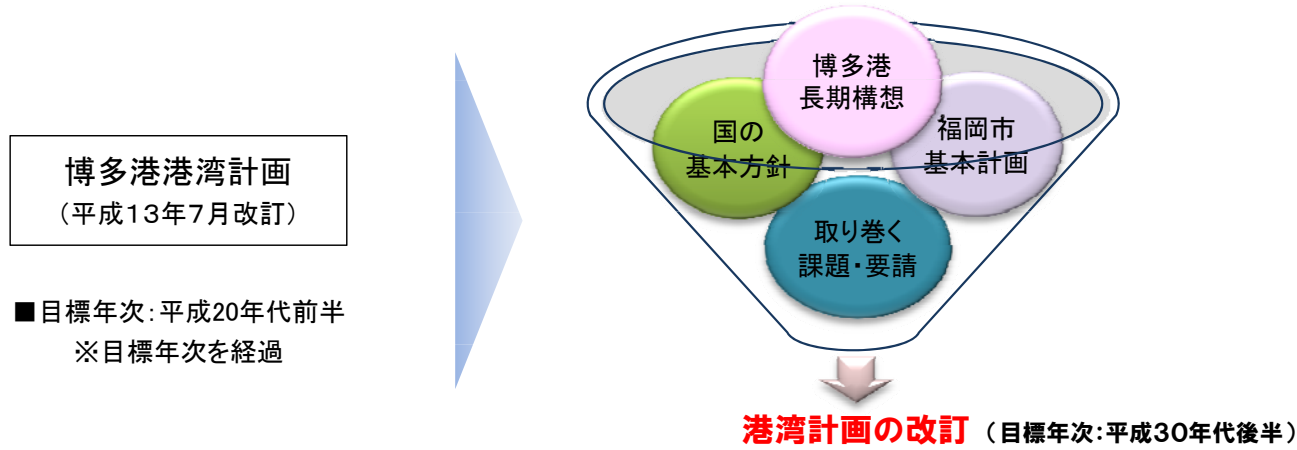
注) ()は九州全体における割合



博多港港湾計画(改訂)の方向性について [目的と方針]

2. 港湾計画改訂の目的

第9次福岡市基本計画などの上位計画や博多港長期構想の提言、ならびに博多港を取り巻く課題や要請などを踏まえ、博多港の地理的優位性など独自の強みを活かした施策を展開していくために、港湾計画の改訂を行う。



■第9次福岡市基本計画 (H24.12策定)

都市像: 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市
 目標: 国際競争力を有しアジアのモデル都市となっている
 施策: 成長を牽引する物流・人流のゲートウェイ など

(目標値:平成34年)
 ■コンテナ取扱個数: 130万TEU
 ■外国航路乗降客数: 210万人

■博多港長期構想 (H24.8提言)

～アジアの中で輝きを放つ
 オンリーワンのみなとづくり～

1. 物流: アジアと世界へつながる元気なみなと
2. 人流: アジアと新たな交流時代のみなとまち
3. 環境: 自然と共生した環境先進港

■港湾の開発等に関する基本方針 (H26.12改正)

- ・産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築
- ・国民の安全・安心の確保への貢献
- ・良好な港湾環境の形成
- ・活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理
- ・新たな海洋立国の実現に向けた海洋政策の推進
- ・ストック型社会に対応した効率的・効果的な事業

■取り巻く主な課題や要請

1. 経済状況, 社会的要請
 - ・経済発展を続けるアジアの活力の取込み
 - ・産業立地競争力強化への支援 (日本のものづくり支援)
 - ・輸送品質の高い物流 (迅速性, 定時性, 安全性, 環境)
 - ・観光立国の推進
 - ・厳しい財政下における公共インフラ整備の選択と集中, 民間活力の導入
 - ・南海トラフ地震などによる太平洋港湾被災時の対応
 - ・人と自然との共生 など
2. 博多港における主な課題・問題点
 - ・コンテナ取扱個数・外国航路乗降客数の増大や船舶大型化への対応
 - ・施設の老朽化, 持続的な港湾機能の確保
 - ・MICE機能の強化
 - ・ウォーターフロントにおける日常的な賑わいの創出 など



満杯に近いコンテナターミナル



高まるクルーズ需要(3隻着岸)



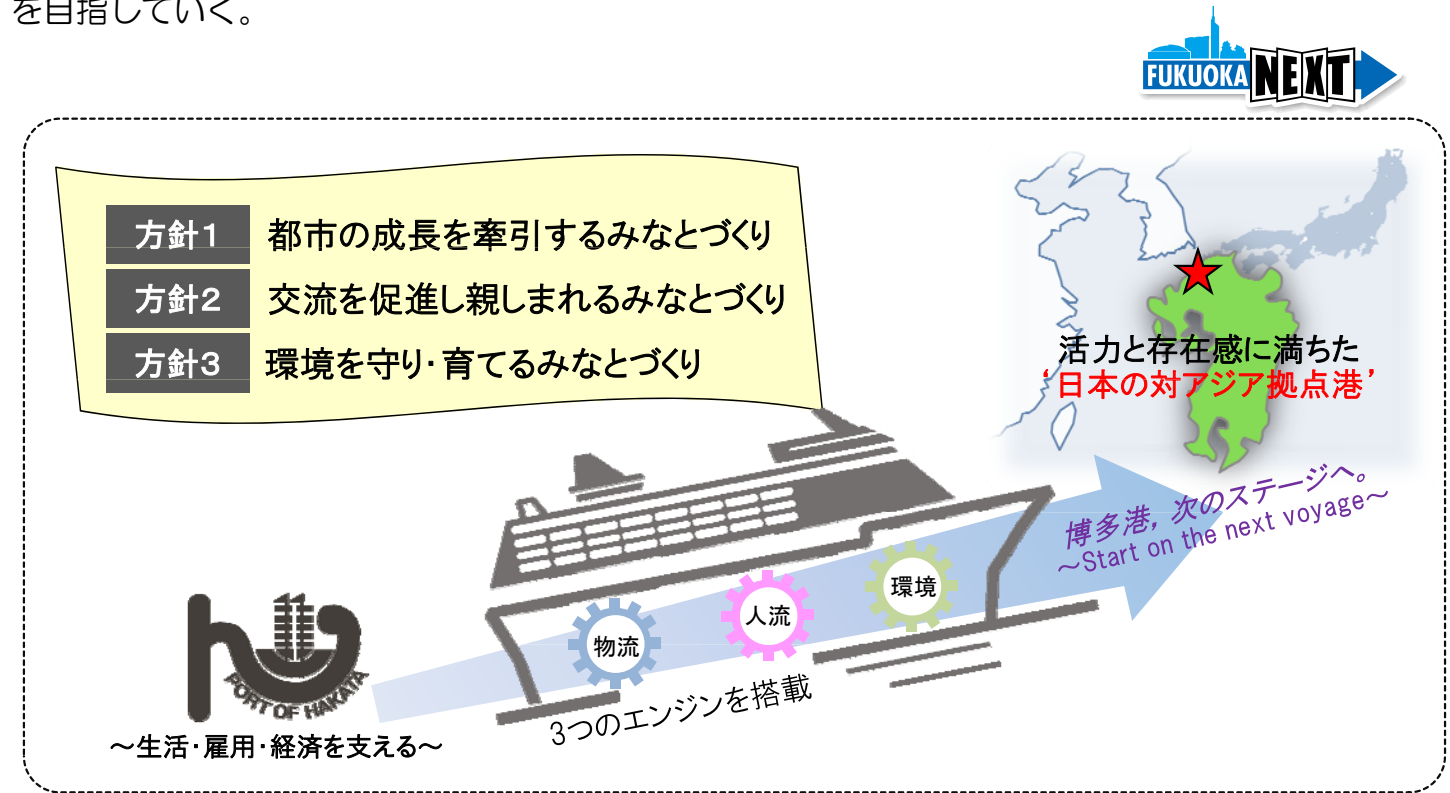
クルーズ客で混雑する岸壁



岸壁鋼管杭の腐食
老朽化する港湾施設

3. 港湾計画改訂の方針(案)

博多港は豊かな暮らしや雇用創出に貢献するとともに、アジア・世界とのゲートウェイ機能を高め、わが国の成長を牽引していくため、**‘活力と存在感に満ちた「日本の対アジア拠点港」’**を目指していく。



～～～ 3つのエンジン(方針)で加速 ～～～

方針1[第1エンジン] 都市の成長を牽引するみなとづくり

- 物流
- ① コンテナターミナルの機能強化
 - ② 国際・国内ROROターミナルの機能強化
 - ③ 自動車輸出拠点の形成
 - ④ 臨港交通ネットワークの形成
 - ⑤ 既存ストックを活用した港湾施設の機能再編 (ビルド&スクラップ)
 - ⑥ 防災拠点の形成
 - ⑦ 安定的な航路維持 (土砂受入先の確保)

方針2[第2エンジン] 交流を促進し親しまれるみなとづくり

- 人流
- ⑧ クルーズ船受入環境の強化
 - ⑨ ウォーターフロントの活性化
 - ⑩ 良好な景観形成

方針3[第3エンジン] 環境を守り・育てるみなとづくり

- 環境
- ⑪ エコパークゾーンの環境質の向上
 - ⑫ 港湾活動における環境負荷の低減
 - ② 国際・国内ROROターミナルの機能強化【再掲】
 - ⑩ 良好な景観形成【再掲】

博多港港湾計画(改訂)の方向性について [取組施策と今後の進め方]

4. これからの取組施策(案)

3つの方針に基づき、以下の取組施策について検討していく。

方針1 都市の成長を牽引するみなとづくり

物流

第1エンジン

① コンテナターミナルの機能強化

コンテナ取扱量の増加ならびに船舶大型化に対応した、大水深岸壁(耐震強化)の整備やコンテナターミナルのヤード拡張など。

② 国際・国内ROROターミナルの機能強化

RORO船の特徴を活かした輸送の利便性向上を図るための、岸壁(耐震強化)の整備やヤードの拡張など。
※RORO船の特徴:コンテナ船より早い・航空機より安い・環境にやさしい・輸送品質が高い貨物船

③ 自動車輸出拠点の形成

自動車輸出台数の増加や船舶大型化に対応した、岸壁の整備やヤードの拡張など。

④ 臨港交通ネットワークの形成

臨港地区と都市部を繋ぐ幹線道路の整備による、円滑な臨港交通体系の形成。

⑤ 既存ストックを活用した港湾施設の機能再編(ビルド&スクラップ)

戦略的なアセットマネジメントの展開(老朽化した港湾施設の機能向上・廃止等)。効率的で使いやすい港づくりや将来的なまちづくりに備えた、段階的な港の機能再編。

⑥ 防災拠点の形成

大規模地震時においても安定的な物資供給や救助等活動を可能とする、耐震強化岸壁の整備や防災拠点の形成。

⑦ 安定的な航路維持(土砂受入先の確保)

船舶の安全かつ円滑な航行を確保・維持するため、継続的に発生する浚渫土砂を安定的に受け入れる海面処分場。

方針2 交流を促進し親しまれるみなとづくり

人流

第2エンジン

⑧ クルーズ船受入環境の強化

クルーズ船の増加や大型化に対応した、岸壁や航路整備など。

⑨ ウォーターフロントの活性化

「ウォーターフロント地区(中央ふ頭・博多ふ頭)の再整備」の取組みにあわせた、賑わい空間・親水空間の創出。小戸ヨットハーバーの利用促進など。

⑩ 良好な景観形成

景観形成の指針づくりなど、民間事業者の協力を得ながら親しまれるみなとの景観の創造。

方針3 環境を守り・育てるみなとづくり

環境

第3エンジン

⑪ エコパークゾーンの環境質の向上

野鳥公園の整備や海域での水底質の改善。ならびに、市民との共働による環境の保全と創造の促進。

⑫ 港湾活動における環境負荷の低減

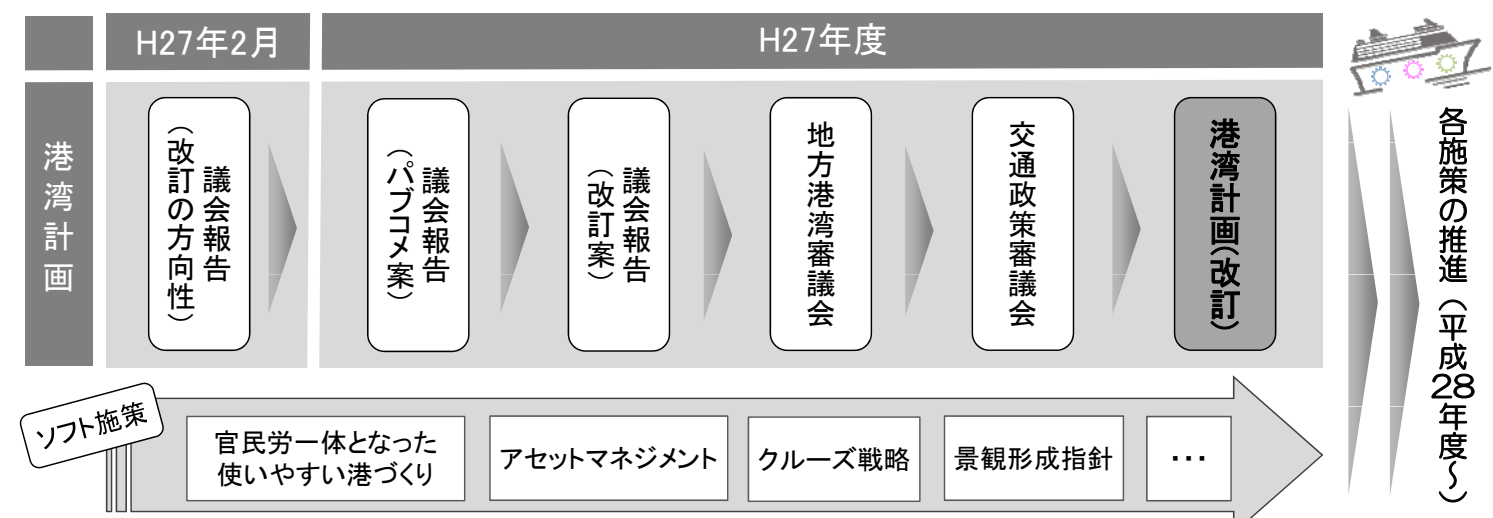
船舶と鉄道輸送との連携強化や、環境配慮型荷役機械の導入の促進。

② 国際・国内ROROターミナルの機能強化【再掲】

⑩ 良好な景観形成【再掲】



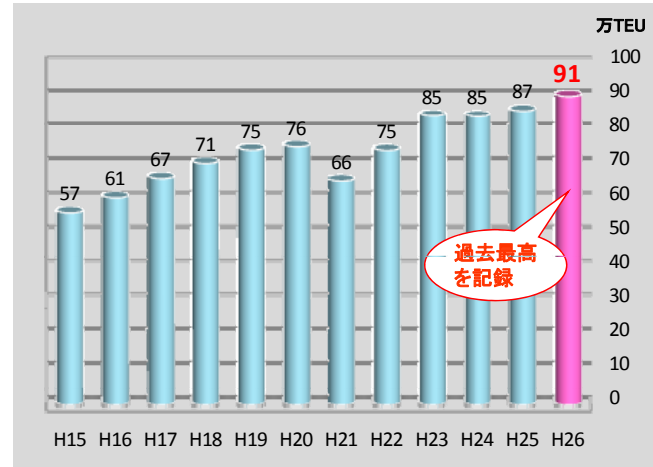
5. 今後の進め方



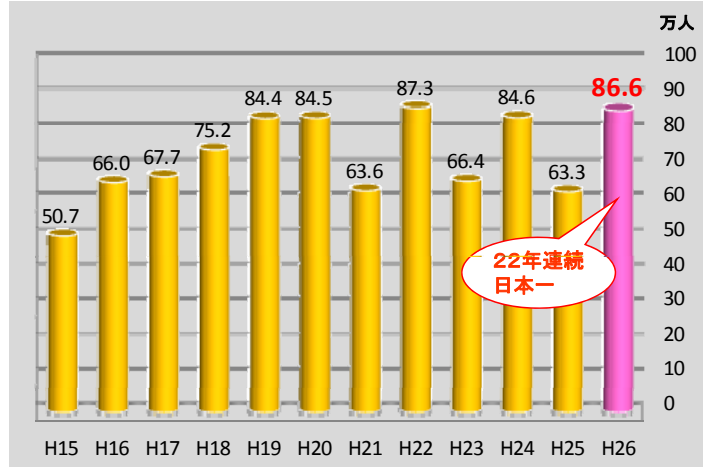
博多港港湾計画(改訂)の方向性について【参考資料】

博多港の港勢

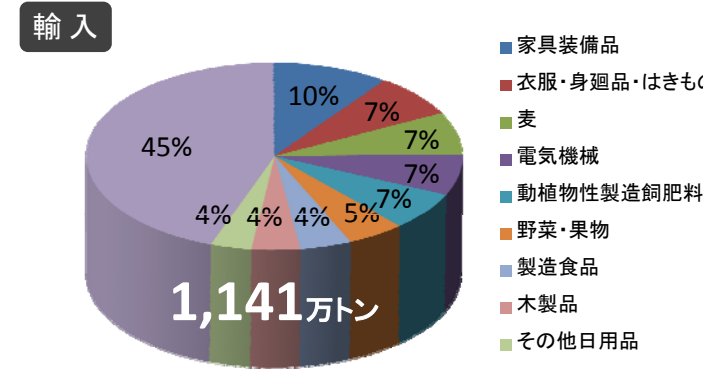
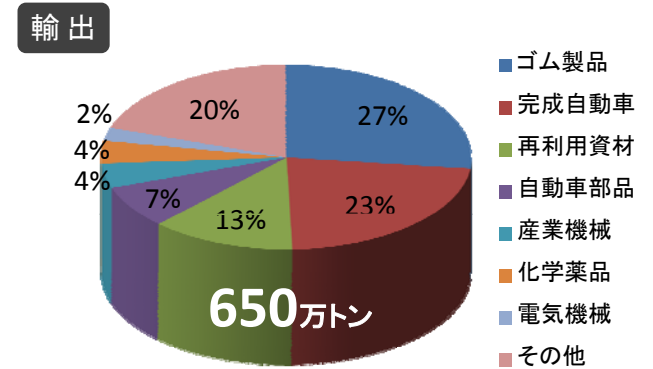
国際海上コンテナ取扱個数の推移



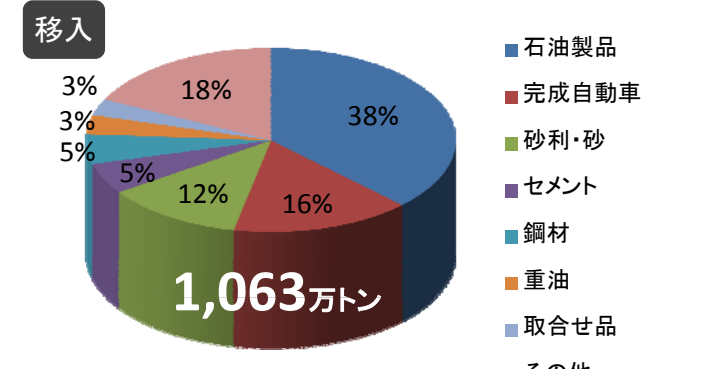
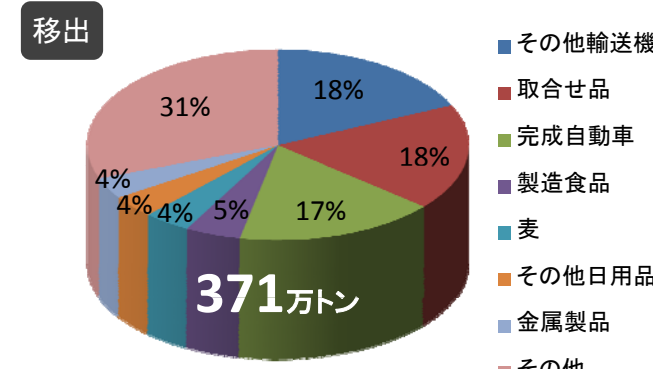
外国航路船舶乗降人員数の推移



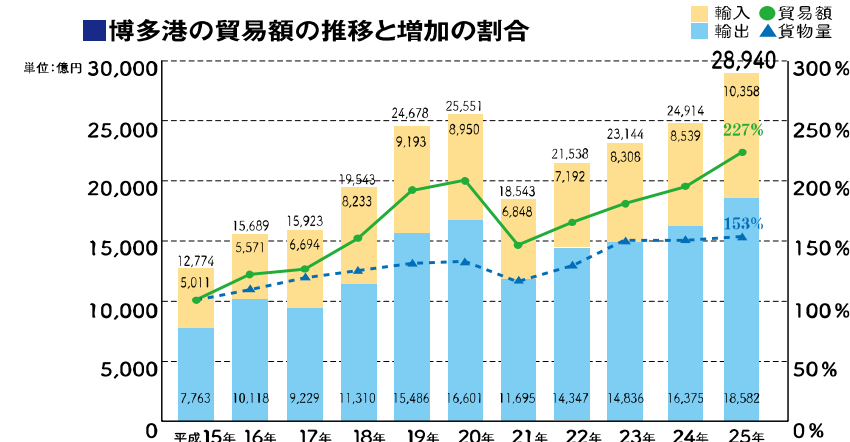
輸出入貨物(H25年)



移出入貨物(H25年)



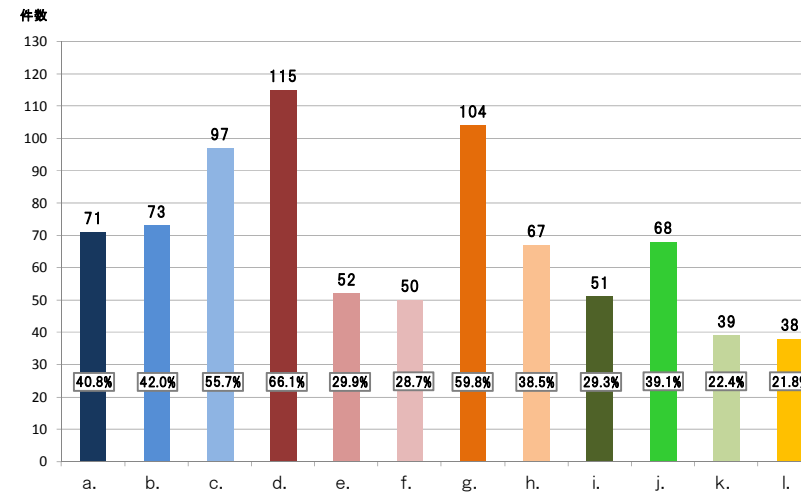
貿易額の推移



『これからの博多港』に関する市民の意見 (H26.9実施 回答数:177件)

①今後概ね10年間で取組む必要な施策(上位3件)

- ・アジアとのシームレスな物流の実現
- ・都心部WFにおける福岡の新しい顔づくり
- ・老朽化した港湾施設の更新と機能再編



紹介した取組み施策

- ビジョン1 社会インフラとしての港の整備
- a. 世界的な船舶大型化への対応(航路の整備)
 - b. 取扱量の増加への対応(新たなコンテナターミナルの整備)
 - c. 老朽化した施設の更新, 港湾機能の再編
- ビジョン2 アジアに近い地理的優位性を活かした戦略づくり
- d. アジアとのシームレス物流の実現
 - e. 港湾活動における環境負荷の低減
 - f. 物流情報ITシステムの拡大
- ビジョン3 集客・交流都市の舞台づくり
- g. 都心部ウォーターフロントにおける福岡の新しい顔づくり
 - h. クルーズ新時代に対応したアジアの玄関口づくり
- ビジョン4 市民との共働によるアメニティ空間の創造
- i. 博多湾の広大な水域を舞台とした賑わいづくり
 - j. 誰もが親しめる港の景観づくり
 - k. 人と自然との共生による豊かな環境の創造
 - l. アイランドシティのまちづくり

②自由意見(128件)

分類	意見件数	主な意見概要
物流	39件 (30%)	<ul style="list-style-type: none"> ○魅力ある港づくりとともに、国際競争に打ち勝つ機能強化をしていただきたい。 ○港を中心に陸・空とのシームレス物流の交通網を構築。(日本を牽引していく代表的なインフラ) ○老朽化した港湾施設の更新には、地震・津波等の災害対策の観点も必要。 ○コンテナターミナルの機能強化(効率的なバンプール等の配置、364日24時間搬入搬出体制の構築等) ○検疫・貨物検査場の集約化が必要。 ○臨港道路の整備の充実。(各碼頭からストレスなくアクセス可能な交通網の整備・構築)
人流	32件 (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ○外国からの観光客を迎える碼頭の環境の整備が必要。(産業と観光ゾーンは分けるべき) ○民間投資をうながして複合商業等施設を整備し、アジアの代表となる港づくりをお願いしたい。 ○市民や観光客が、港を見に行きたくなるような施設や催しがあると良い。 ○中央・博多碼頭やアイランドシティから都心部(博多駅、天神駅)への公共交通機関を充実してほしい。
環境	6件 (5%)	<ul style="list-style-type: none"> ○港湾整備による経済発展と環境負荷の低減をバランスよく推進していくことが重要。 ○豊かな自然環境が多いため、自然環境と調和した景観の創造を望む。
その他	51件 (40%)	<ul style="list-style-type: none"> ○アジアへの玄関口として、物流・観光の両面で博多港の発展(未来を切り拓く先進港)に期待する。 ○博多港は九州を背後地域にもつ一大港湾であり、地域全体の発展の要となる開発や整備は港湾管理者の重要な使命である。 ○世界とのボーダレス化を掴みとれるチャンスが大きい博多港だからこそ、改革にはスピード感を持って取り組んでもらいたい。

③【参考】取組みへの共感(無回答2件を除く)

